

幽玄

題字

高秀秀信横浜市長

横浜能楽連盟
会報 No. 3

平成3年11月9日発行

第四十回横浜能の開催実施大要が内定した。

連盟の歴史を飾る演能は、昨年よりこの準備体制に入っていたが、骨格プランが八月二十七日に行われた当連盟理事会において承認された。細部については今後、各流派家、市教委などとのつめが行われるが、内定した事業内容は次の通りである。

(一)、期日 平成四年十一月二十五日、二十六日、二十七日の三日間

(二)、会場 関内ホール

(三)、内容

①五流による能と狂言の鑑賞会

十一月二十五日、十八時

観世流梅若会、金剛流

十一月二十六日、十八時

観世流、金春流

十一月二十七日、十八時

第40回 横浜能 実施大要固まる!!

宝生流、喜多流

②学生むけの講演と狂言の会
十一月二十六日、十四時～十六時

③市民参加（アマチュア）による謡曲と仕舞の会
十一月二十七日、十三時～十六時

横浜能楽堂（仮称）の建設が目前に迫っていることでもあり、市内能楽愛好者総力をあげてのイベントを計画いたしておられますので、広く御協力を頂くことを連盟あげてお願いするものであります。



一日も早く 能楽堂の着工を!!

掃部山公園に建設が決定されている「横浜能楽堂（仮称）」について、地元住民からの反対運動がおき、五月二十一日、横浜市の市民建築委員会が現地視察を行い、住民から出ている反対陳情について審議された。この結果「今後、可能な限り住民との話し合いを続けて要望を採り入れる」という条件で、市側の説明を賛成多数で了承したことは新聞報道等で明らかである。その後数ヶ月に及ぶ市の住民説得工作にもかかわらず、八月六日に至り「かもん山を守る会」から横浜簡裁に建設工事差し止めの調停申し立てが行われ、事態は複雑化した。

高秀横浜市長、横浜市会すじ



▲第38回横浜能「熊坂」
後シテ守屋泰利

は、これらの状況から、局面の打解をはかるため、予定地を同公園内の別の場所へ変更すべく、新たな検討に入った模様である。反対者側は①緑が破壊される②子供の遊び場がなくなる③災害時の避難場所がなくなるなどが三点を反対理由にあげているが市民局文化部では、いずれも解決に出来る自信を示し、既に平成三年度に実施設計予算一億三千万円も計上され、明年度着工を目指し、鋭意努力することを言明している。

専門文化施設として、横浜市がはじめて建設する伝統文化の殿堂「能楽堂」が、一日も早く建設されることを願うのは、我々能楽ファンだけでなく、数多くの市民の強い要望でもあり、横浜の文化の質を問われる問題でもあるので、早急な全面解決が望まれる。

各流謡曲と 仕舞のつどい

（平成三年度後半）

主催・宮越記念久良岐能舞台

各流が独自に企画して謡・仕舞を披露します。「能」に接したことのない方でも愛好家でも楽しめるように工夫してありますので御気楽にお出かけください。

一、日程

(一)平成三年十一月二十四日(日) 観世流 梅若会

(二)平成三年十二月八日(日) 観世流

(三)平成四年二月二十九日(土) 宝生流

二、申込要領

(一)申込資格 市内在住在勤者
(二)申込方法 往復ハガキで申込み希望日を記載。(一枚のハガキで複数人の申込みができます。)

申込者が多数の場合は抽選により決定します。

(三)入場料 無料
(四)問い合わせ先

(申込ハガキ郵送先)

磯子区岡村八ノ二一ノ七

宮越記念久良岐能舞台

TEL 七六一―三八五四

養老紀行

連盟副会長
観世流 高岡 幸彦

謡曲「養老」は孝子伝説によるものとされているが、昭和初期「忠孝一本」という様な教育を受けた我々は小学読本の教材として習った覚えがある。

平成三年九月十一日に偶々岐阜にて旧き友の集いがあったので、この近くに養老の滝がある事を知り訪れてみた。

岐阜より東海道線で大垣駅に行き、そこから近鉄養老線に乗るのであるが、この近鉄養老線というのはJRの一番大きな時刻表でも始発と終電しかのっていない。成程大垣駅で時刻表をみると一時間に一本乃至二本しか出ていないのである。丁度私に着いた時は約三十分待ちであった。この様な間隔ではさぞ込みあうのではなからうかと思つたが、列車にのつてみると二輛連結で一輛に五、六人しか乗っていない。こんな状況でよく経営がなり立つものかと人ごとながら気になった。それだけに車輛は全く旧型で冷房もなければ、僅に後から取付けたかと思われ扇風機が回っているだけである。途中停車駅も無人駅が多く

車掌が駅毎に降りて改札もかねるという全くのローカル線であった。しかし昔の学生時代の夏休旅行も思い出され懐しさもあった。大垣駅より約三十分で養老駅についたがガイドブックにはバスがあると書いてあったので駅でたずねると、この路線は廃止になったとの事でタクシードで養老の滝へ向つた。

養老の滝の周辺は養老公園となっており、数軒の旅館も見えた。主に観光バスで来たと思われる団体客で賑わっていた。養老寺は公園の入口にあり国宝十一面千手観音と刻まれた石の標柱があった。その縁起によると「孝子一門の事が天朝に達し天正天皇が当山に行幸され玉体を洗わせ給うと御痛みの処が平癒され、お喜びの余り年号を霊龜三年十一月を改めて養老元年とされた。又孝子はその徳を顯さん為に美濃守に任せられた。その後養老二年二月に再度行幸され養老寺を建立された」と記されていた。養老二年とは今から何年前か調べてみたが西暦七八年実は今より千二百七十年昔の創建である。謡曲「養老」の作者「世阿弥」が生誕したとされる貞治二年（一三六三年）より六百五十年も前であり、養老の物語はその頃でも昔語りであったという事がよく判った。

養老の滝は大変美しい滝で、紀州の那智の滝に似ている様に思えたが、周囲の状況は那智の様なきらびやかさはなく、全くの山中の滝の感が深く、滝の横に数條の水が流れていた。謡曲の「この滝壺の少し此方の岩間より、出で来る水の泉なり」といわれているのはこの辺りかと思われた。

帰路タクシートの運転手にこの辺は大変過疎に苦しんでいるところで、近鉄養老線もタクシース会社も経営が大変であり、秋の紅葉の季節を除き防れる客も少く、昔、年号も変ったほどのこの旧蹟も将来はどうなるのでしょうと言われた言葉に一扶の淋しさを味わって帰った次第である。

横浜能楽堂

建立に寄せて

横浜梅若連合会
幹事 八木下 艶子

永い間の謡曲愛好者にとつて誰もが念願して参りました横浜能楽堂建設決定の報に接し、関係者役員諸氏の並々ならぬ御苦労と行政の文化活動に対する御理解が一致、文化都市横浜の誇りが一つ増した様な気持ちで心から敬意と感謝の念で一杯でございます。私は鶴見の一角にて

こよなく謡曲を愛し四十年來謡曲を通じての友を多く持ち地域活動を致し乍ら延びた人生の余生を楽しく、そして中広く皆様と老後の安らぎを得たいと考え

て居た矢先、横浜五流謡曲連盟の観世流横浜梅若会が発足十名の役員の中に席を置く事になり微力ながら梅若会の発展に協力を致したいと存じまして精進を重ねて居る者でございます。横浜梅若会に参加致しましてから諸先輩の方々の趣味を同じくする者の交流の温かさとお親しさが深くなり、発足三年を迎えて実に十年の知己以上の何のうたがいも持たぬ信頼が重なり、友の和を益々広げ初心者も一人でも多く参加して頂き、横浜能楽堂落成迄に能楽の楽しさを皆様に伝え横浜の謡曲の集いを益々発展させ、文化の向上に微力を捧げたいと思います。愛好者の縦横の連絡情報を中心として出来た会報「幽玄」第三号に寄稿の機会を得たので、これを機に横浜能楽五流の中で横浜梅若会が最も新しいグループと存じますが、堀内万紗子会長を中心に文化都市横浜に相応しい横浜能楽堂建設の完成を夢見て謡曲愛好者の根強い力を網羅し交流を深めて参る処存です。終りに横浜五流能楽連盟のご発展を心から祈念し

幽玄第二号（水野潔副会長御招

介）の横浜梅若会グループへの御指導とお引立の程、会員を代表してお願ひ申し上げます。

横浜宝生流

連合会の現況

連盟副会長
宝生流連合会長 新堀 豊彦

横浜宝生流連合会は、戦後間もなく発足した横浜宝生会が、昭和五十九年に活動を休止したあと、同六十年三月に、改めて市内宝生流同好者の総合的な組織として再発足したものであります。

当時、たまたま横浜能楽堂建設の機運も盛り上っていたこともあり、募金活動の受け入れ機関もかねる形をとることになったものであります。

連合会でありますから、会の組織は、どなたでも自由に謡曲を楽しむオープンな会として、教授嘱託（家元より当流の指導を嘱託する免状をもつ）から、まだ稽古をはじめて数年の方も交じつて毎月の例会を六年余り着実に続けて参りました。

おかげ様で、久良岐能舞台主催の「宝生流謡曲と仕舞いのつどい」（毎年二月頃）、能楽連盟主催の「五流大会」（五月）、当流主催の大会（夏期）など、会員参加の檜舞台での活動も盛大さを

年ごとに増しております。

とくに連合会主催の大会は、本年四回目を数え（九月一日、久良岐能舞台）塚田光太郎、大坪喜美雄両師の御出演を頂き、素謡二一番参加団体一八、出演・来会者合計二百五十名に達する盛会裡に開催出来ました。

これも教授嘱託会神奈川県支部の強力なバックアップと、当流同好者の結果のたまものと感謝いたしております。

横浜の宝生流は、かつて村雨俱樂部という大天狗のグループをはじめ、高橋進師の架水会、塚田栄美師の栄宝会、木村鉄次師らのグループなどが相い競い、その活発さは大変なものでありました。宝生九郎、野口兼資、近藤乾三各師の如き、当代の名人も、気楽に来賓され、御指導を頂いたこともしばしばでした。今、連合会も第二期の黄金時代を迎え、さらに研さんをつみ素人の愛好家グループとして今後の飛躍と、一日も早く能楽堂の建設によって一層の能楽界の発展を期したいと思っております。

謡曲事始め

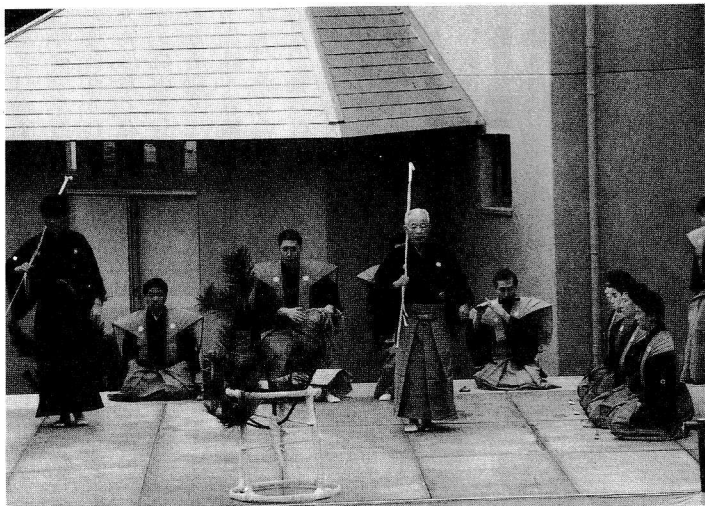
喜多流小笠原潤

物思、う時しもは今こそ秋ながら、日常のあれやこれやに忙殺され、落ち着いて考える余裕もないまま、かつ浅学の身を省ず事をとる厚顔を許して下さい。

かれこれ十年になります。よく、「竹むら」へ行くときまつて話題となつてゐるのが謡曲や能のことでした。右左の席で、また後ろの座敷で楽しい語らいの中から、時には謡いが聞こえてくることもありました。

三十代の人間にとつて芸事を始めるということとは、最初に時間的な問題をクリアしなければなりません。実際関心はあるのですが、いざ自分が始めるという段になるといろいろな物理的な制約の前で最初の一步が踏みだせないのです。そうした三十代にこうして楽しみを同じくすることができたのは、喜多流の友枝昭世先生とその弟子となる故坂本寿氏と浦部副会長のご尽力のおかげです。

毎週水曜日のお昼休みの一時間、を稽古時間として勤務の合間に出来るようにとの配慮をい



ただきその結果十数名の若い同好の士が集いました。そして諸先輩方々からは、海謡会や五流の大会などで、学生時代の批評の対象としてしか能を見ていなかった自分が恥しくなるような教えを受けました。私共初心者耐えず励まし誉めて、そして自分は驕らず謙虚である芸への素直な姿勢を学びました。シテやワキへの感情移入の大事さといったことも、さりげなく冗談のように話されながら一歩ずつ見守って下さるといった風でし

た。

八九年の三月に、世田ヶ谷ビレッヂという海外よりの帰国子女の寮、研修施設をオープンした時、その出発の祝いに能「羽衣」を上演することとなり、その際ワキツレとして舞台に上げていただいた事は、すさまじい緊張感と集中することの難しさの中で、忘れられない一頁となっています。

このようにして一歩を踏みだしたばかりの私ですが、これまで以上に稽古に励み、皆様方と楽しく芸の道を学びたいと思っています。

守屋与四巳師

叙勲に際して

金春流春巳会後援会々長

西田太二郎

我々の師匠守屋与四巳先生はこの春の叙勲に際し、勲五等双光旭日章を授賞されました。ご本人は勿論我々弟子一同もその

平成三年度会費の納入と新規会員勧誘について

平成三年度会費の納入率は上半期末現在約七〇%です。残り三〇%の方々の納入をよろしく願います。また、新規会員の加入率（今年度）は、約五%と低調ですので一層の勧誘をお願いします。

なお、新規会員の加入には入会金と三年度会費の納入が必要です。（個人会員は入会金千円、三年度会費千円の計二千元、団体・法人会員は入会金二千元、三年度会費二千元の計四千元）

（納入方法）

左記口座へ振込むか横浜能楽連盟理事に現金でお渡しください。

※振込口座

横浜信用金庫本店

口座普通通三八九三五一

横浜能楽連盟

市庁内郵便局

四七四二三四四一

横浜能楽連盟

なお、郵便局にご自分の

口座をお持ちの方は、下記

口座に口座振替ができます。

（振替口座を設けました。）

※振替口座

番号 横浜一 二五八〇四
名称 横浜能楽連盟

喜びがまだ
さめやらぬ
現在であり
ます。

先生は、

桜間弓川師
に師事され
現在名実と
もに金春流
の重鎮とし
て活躍し、
金春流、ひ
いては能楽
界の発展の
ため貢献さ
れています。

先生は戦
前より横浜
に在住され、
横浜能には
第一回より
殆ど欠かさ
ず出演して
おられ、横
濱能楽連盟
の一員とし
て誇りに思
っている次
第であります。

十月六日には国立能楽堂で金
春流「鶴」を演能されますので、
楽しみにお待ちしています。

先生主催の春巳会は能、舞
子、仕舞などを毎年催し十二
月には国立能楽堂で催される
金春流友連合謡仕舞会に参加
し日頃の研修の成果を発表
しています。又素謡会は毎月
西区西地区



▲守屋与四巳先生 勲五等双光旭日章叙勲記念 平成3年7月7日 久良岐能舞台

センターで行い先生の指導を
受けています。久良岐能舞台主
催の「謡曲と仕舞の集い」も金
春流として三回目を終ったこ
ろであります。

来年は先生も喜寿に達せられ、
益々円熟した舞台姿を見せて
いただけると期待しています。
写真は久良岐舞台での叙勲記
念写真であります。

謡跡めぐりの旅

金剛流 横濱金剛会

熊谷 真知子

私達の会では毎年謡曲の史跡
めぐりを行っている。今年は源
平の古戦場を中心に瀬戸内を訪
ねた。新宿から高速夜行バスで
坂出へ。台風一過の空と海に瀬
戸大橋が雄大かつ華麗な姿で出
迎えてくれる。いよいよ謡跡め
ぐりの旅が始まる。

まず初めは白峰寺。ここから
白峰御陵を拝する。崇徳帝がこ
の地に流された所、消沈の心を
天狗の舞でなぐさめられたとい
う「松山天狗」は当流にのみ伝
わる名曲。

黒峰・青峰を左右に見て屋島
寺へ。源氏の兵たちの血刀で池
の水が真っ紅に染った台地から
血の池「海人」の物語に続く面
向不背の石碑がある壇の浦の古
戦場を眼下に見る。志度寺では
海女の墓に手を合せながらせつ
ない気持ちを覚えた。

鳴門大橋を経て淡路島に入る。
義経・静の五輪塔は手の行き届
いた庭園の中にあつた。いざな
ぎ神宮は「淡路」の国生みの二
神を祀る。幽宮にふさわしい佇
いだ。淡路廃帝の御陵の前で
「当麻」の一節が思い出される。

夜、宿に淡路島在住の流友の
方が訪ねて来られた。皆初対面
だが話に花が咲き再会を約束す
る。

翌日岩屋から船で明石へ渡る。
「草子洗」の柿本神社に参拝した
後、腕塚を経て忠度塚に参る。
住宅街の小さな祠堂だが花の絶
えることがないという。人々の
忠度への思いに触れ感懐ひとし
お、敦盛塚から須磨寺へ向う。
敦盛、直実の二騎の馬上の姿や
青葉の笛に平家の哀れを感じ、
直実のやるせなさが伝わって来
る。

時の流れに古戦場のおもかげ
はかならずしも定かではない。
ただ静かに佇む石碑や遺跡にそ
の跡を辿るだけだが、謡曲に親
しむ私達は、より深く古しえの
人の心に思いを馳せることが出
来るかも知れない。人々のあた
たかさにふれた、いい旅だった。



連盟の動き

* 七月四日 常任理事会(教文
センター) 横濱能等打合せ

* 八月二十日 横濱市文化振興
財団第一会評議員会(インタ
ーナショナル・プラザ・ホテ
ル) 新堀会長出席

* 八月二十七日 理事会(教文
センター) 第三十九回横濱能
会員券販売開始

* 八月三十日 東田淡雅連盟常
任理事(梅若逝去、通夜、告
別式(三十一日)久保山霊堂、
御冥福をお祈り申し上げます。

* 九月二日 第十回横濱新能
(MM21臨港パーク) 連盟後援

* 九月十二日 TVK、カフエ
・シティ・ヨコハマに「横濱
能」のPRと能についての解
説のため、新堀会長、竹村常
任理事出演

* 九月二十六日 横濱能楽堂建
設促進会、三回目の募金納付
を横濱市に行う。馬場助役へ
手交。同時に「横濱能楽堂(仮
称)見所の座席確保に関する
お願い」を文書にて渡し、陳
情する。野並顧問(促進会副
会長) 新堀会長(同) 中島常
任理事(促進会常任) 外出席

* 十月三日 かもん山新能(連
盟後援)

* 十月九日 常任理事会(教文
センター) 横濱能打合せ他